

嶋満神社便り

平成二十五年一月号

発行 嶋満神社奉賛会

奉賛会員の皆様、明けましておめでとうございませう。皆様方には健康でお幸せな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。今年も皆様にとつてよいお年になりますようお祈りいたします。

当社社もきれいに飾りをされ、新年を迎えることが出来ました。今年もどうぞよろしくお願い致します。またたくさんのお供えを頂だいし、ありがとうございます。



さて今年元旦には拝殿前で嬉しいことがありました。いつもはお参りしても大抵誰にも出会うことはないのですが、今年には二組の参拝者に出合ったのです。一組は町内で小さいときから見ていた女子中学生のグループ、一組は下のマンションにお住いの男性の若者たちです。どこにいても若者の笑い声が弾むのは嬉しいことですが、とりわけ当社前が若い声で賑わうのは将来に向かって明るい希望に思えます。昨秋に参道入り口に由来の看板を

設置した甲斐が早くもあつたかと、喜んでおります。



“海の守護神”、今こそ！

皆様もご存知の通り当社は太古の昔より白糸湾の入り口にあつて、「海の守り神」としてお祀りされてきました。

そんなことから昨今の尖閣、竹島での隣国の横暴を見聞きするにつけ、「今こそ八幡さんのご威光で何とかならぬものか」と冗談ではなく思うのは、私だけでしょうか？

当地では市内に海保の八管本部、海自の舞鶴地方総監部を擁することからいつ何時、一朝有事の際の出撃港となるかも知れず、遠い海の向こうの他人事で居るわけにはいかないからです。

しかし八幡さんには「武力行使の守護神」ではなく、いつまでも「平和を守るための神様」であつてほしいと思ひます。

新年にあたり、世界の平和を願わずには居られません。

さて皆様方はどうお感じになるでしょうか？

